

井上まい

通信

令和7年第3回福岡市議会（6月定例会）にて 一般質問に登壇!

6月10日～6月18日まで、福岡市議会6月定例会が開かれました。井上まいは、一般質問に登壇し、本市の行政サービスを支える情報システムやDXをテーマに質問をいたしました。今回の質問の概要についてご紹介いたします。

公式HP



寄り添う政治
で地域に尽くします!



市民のための行政DXを!

本市は、全国でも早い段階からDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組んできた都市のひとつです。**DXとは、デジタル技術を活用してサービスや業務のあり方そのものを大きく変えていくこと。**単なる電子化やIT導入ではなく、社会や暮らしをより便利に、効率的に、そして誰もが使いやすく変えていくことが目的です。たとえば、以前はビデオやCDを買ったりレンタルしていたのが、今ではインターネットで好きな時に映画や音楽を楽しめる時代になりました。また、昔ながらの出前文化も、今はアプリで注文・決済・配達まで一括でき、利用の幅が広がっています。行政も同じく、役所に行かなければできなかった手続きが、スマホやオンラインで完結できるようになりつつあります。

福岡市も2012年には、コンビニで住民票を取得できる仕組みを全国に先駆けて導入しました。こうした取り組みは、スマホやデジタルに強い人だけのためのものではありません。**行政の省力化を進め、福祉など人の力が必要な分野へ人員を重点的に配置することも重要な目的です。**

私は今回の質問で、DXを支える情報システムの基盤から、市民サービスの利便性まで幅広く取り上げました。その一つが「リモート窓口」事業についてです。これは区役所から離れた地域の公民館などでも、ビデオ通話を使い区の職員とつながれる仕組みです。現在、城南区では堤公民館で試行されていますが、現状は「相談のみ」の対応にとどまり、利用者はほとんどいません。**私は今回の質問の中で、相談対応だけでなく、必要な申請手続きもこのリモート窓口で可能にするよう求めました。**今後、公民館などが地域の身近な窓口として機能すれば、住む場所に左右されず、誰もが公平にサービスを受けられます。DXは、単に便利にするだけでなく、地域間の格差をなくし、誰もが安心して暮らせる街づくりにもつながります。これからも現場の声をもとに、使いやすく、実感できるDXを推進していきます。



※DX(デジタルトランスフォーメーション)イメージ



当日の様子は動画でもご覧いただけます!



井上まい プロフィール

1989年(平成元年) 志免町生まれ
2008年(平成20年) 福岡県立明善高等学校卒業
2013年(平成25年) 九州大学 21世紀プログラム課程卒業
2015年(平成27年) 株式会社リクルートジョブズ入社
2018年(平成30年) 衆議院議員いなどみ修二 秘書
2019年(平成31年) 福岡市議会議員選挙初当選
2023年(令和5年) 福岡市議会議員選挙2期目当選
所属党派: 福岡市民クラブ
所属委員会: 教育こども委員会(副委員長)・議会運営委員会・都市問題等調査特別委員会

TOPICS

福岡市の学校給食について



SNSで「唐揚げが1個だけの給食写真」が拡散され、福岡市の学校給食が全国的に注目されました。市長の「私もショックでしたし、寂しい思いにもなった」という発言も報じられましたが、6月議会において私が所属する「教育こども委員会」では冷静な議論が行われました。

写真で話題になった日のメニューは、大きめの唐揚げが一つですが、汁物の中に多くの具材が使われており、全体的には必要な栄養基準は満たされています。給食提供での最大の責務は**安全な給食を提供すること**。調理の現場では、食中毒防止のために様々なルールや規制があり、食材については必ず決まった温度での過熱が必須になりますので、生野菜などは提供できません。また、夏場はさらに厳しく、今回の唐揚げの提供さえ、夏場は調理ができないため年に3回程しか提供されていません。日頃から限られた時間・人員・予算の中で努力を重ねる栄養教諭や調理員の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

また、福岡市の給食は、地元産の野菜や質の高い食材を重視しておりますが、そうするとコストが高くなってしまいます。現在の給食単価(保護者負担)は**小学校で1食約243円、中学校で約289円**ですが、物価高騰を受け、**ここ数年は市が毎年12億円規模の予算を追加し、保護者負担を増やさず質を維持してきました。**さらに、今年度から段階的に給食無償化も始まり、2学期から保

護者の負担はゼロになります。

今回、教育委員会が進めている「有識者の意見聴取」も、今回の報道を受けた対応ではなく、もともと無償化を機に給食の質やあり方を見直す計画の一環です。SNSで一部の情報が広まる一方、現場からは「市長の発言はショックだった」「努力が正しく伝わってほしい」という声や、子どもたちからも「唐揚げなくなっちゃうの?やめないで!」という声もあがっています。

今後必要なのは、**安心や栄養面はもとより「見た目」「ボリューム」「質」のどこを重視するのか、また現在の給食予算自体が適正なのかという、様々な角度からの議論です。**質量ともに確保するためにどこまで予算を投じるのか、市長も「必要なら予算増も」と表明しており、議会としても冷静に検証していく必要があります。私はこれからも教育こども委員会の委員として、子どもたちが安心しておいしく給食を楽しめる環境づくりを推進していきます。



福岡市学校給食公社HPより



〒814-0155 福岡市城南区東油山1丁目1-16 東野ビル1F
TEL.092-874-2601 FAX.092-874-2602



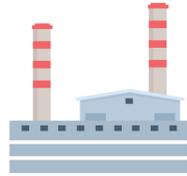
5月開催の臨時議会では、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会の編成等を確認し、落石俊則議員が経済振興委員会の委員長、井上まい議員が教育子ども委員会の副委員長、議会運営委員会では、前野真実子議員が新たに就任し、田中たかし議員が理事を拝命しました。また、池田良子議員が監査委員に就任しました。

令和7年 第3回福岡市議会(6月定例会) 開催

令和7年第3回定例会[6月10日(火)～18日(水)] が開催され、令和7年度一般会計補正予算案、条例案など全27議案について審議しました。

議案より 1 ごみ分別に「プラスチック」が加わります!

令和9年2月からプラスチックごみの分別収集が開始されるにあたり、家庭系ごみ区分に「プラスチックごみ」を新たに追加。その料金(処理手数料)が決定しました。



※福岡市はごみ袋の売り上げがごみ処理費用に使われるため、処理手数料として扱われます

■ごみ袋の種類は45ℓと25ℓの2種類



(ペットボトル空きびんごみ袋と同じ1ℓあたり0.5円に設定)

議案より 2 医療的ケア児・者、強度行動障害を持つ方とご家族への支援が拡充されます

●訪問型在宅レスパイト事業

【対象】24時間人工呼吸器を使用する医療的ケア児・者

▶サービスの利用時間が年間48時間から令和7年度は338時間へ拡充

●相談事業

【対象】医療的ケア児、強度行動障害を持つ方、それぞれのご家族

▶専門知識や経験を有する相談員を増員し、伴走型の支援体制を構築

●両事業ともに、早ければ8月からスタート



悲劇を繰り返すな! 実のある支援の拡充を!

議案質疑 [6月10日] 田中たかし (西区)



補正予算案の中から、医療的ケア児・者、強度行動障害を持つ方を看護する方への支援策に関し質疑。在宅レスパイト事業と相談事業が試行的に拡充されるため、実効性ある内容かを確認。レスパイト事業を担う訪問看護師や相談事業にあたる専門的知識と経験を有する相談員などの人材確保の見直し、

サービスを最大幅提供できるだけ予算措置がされているかなどを質し、問題ないことが認められました。今回のような支援策拡充は以前より求められていたものの、1月の博多区での事件を受けて緊急的に行われることは極めて残念と指摘。行政は日頃より当事者や議会の意見に真摯に耳を傾け、重大事案が起きる前に先んじて対応を取るよう強く要望しました。

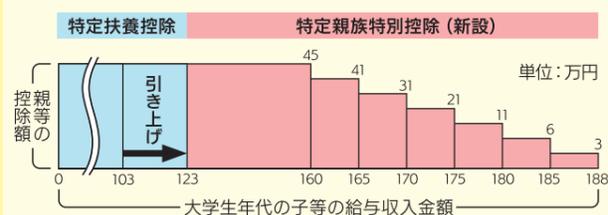
議案より 3 市税条例の一部改正について

令和7年度の税制改正で「103万円の壁」が123万円まで引き上げられました。さらに、住民税については条例改正で、特定親族特別控除が新設されます。

【対象】大学生年代(19歳以上23歳未満)の子を扶養している親等

【内容】対象者は、子等の所得が123万円を超えても、図のように段階的に控除を受けられます。世帯によって手取りの増加、雇用側の労働不足緩和が期待できます。※R8年度の市県民税から適応

【大学生年代(19～22歳)の子等に係る特定扶養控除等のイメージ】



学校にゆとりの時間をつくるべし!

一般質問 [6月11日] 落石俊則 (東区)



本市の教職員の採用倍率は依然として低倍率であり、精神疾患による休職者も高止まりしています。子どもたちのゆたかな学びを保障するためには、長時間勤務を解消し、教材研究や授業準備、生徒指導等の時間を十分に確保する必要があります。2022年策定の「学校の働き方改革推進プログラム」では、月100時間以上の長時間勤務ゼロを目標としていますが未だ達成できていません。専門コンサルタントからの教職員の業務適正化・簡素化や土曜授業の在り方などの改善策提案を基に、実効性ある働き方改革の推進を要望。教育長から、指導・運営体制の充実や教員業務の適正化・効率化を進め、負担軽減を図るなど、学校の働き方改革を推進していくとの答弁を得ました。

緩やかな備蓄のすすめと食育・眠育の推進を

一般質問 [6月12日] ついちほら陽子 (東区)



大災害発生時の生活の安定と安全確保のためには家庭内備蓄が重要ですが、市民意識調査によると家庭内備蓄をしている市民は43.8%と半数以下。備蓄率向上のため、生活必需品を少し多めに買っておく「ローリングストック法」の周知を求めました。『食育』と『眠育』の推進に関する質問では、当局も重要性は認めるものの推進策に積極性が感じられないため、食育については、関心を深めるための親子料理教室の開催等を提案。眠育では、本市は子どもの睡眠時間調査を独自に実施していないため、まずは詳しい調査をするよう要望。当局よりICTを活用して子ども達自身が自分の睡眠時間を振り返ることができるような方法について研究するとの答弁を得ました。

民間活力を生かしてリユースの促進を

一般質問 [6月12日] 小竹りか (南区)



市は3Rステーション等でリユースを推進していますが、市民アンケートではリユースしている人は37%。しない理由に「持ち込みが面倒」との声があるため、市による回収代行や新たなリユース拠点設置について質しましたが、実施予定はないと明言。リユースは他のごみ減量施策より後回しと指摘した上で、市がやらないならば民間活力を最大限に生かすべきと主張。「まだ使えるのに捨てられるもの」が活かされるよう、個人間で手軽に売買できるフリマアプリの活用、ジモティースポットのような不要品の交譲ができる環境整備を要望するも、「民間事業者と連携したリユースイベント等を実施」するとの答弁に留まり、積極的な姿勢をみることはできませんでした。

行政DXを支える裏側について現状を確認!

一般質問 [6月13日] 井上まい (城南区)



市民サービスの向上や行政事務の効率化を図るため、本市では、内部システムの大改修が行われています。これまで約10年間で90億円余りの経費がかかっている一大事業です。行政の効率化を実現するために必要不可欠な基盤の整備となりますので、その進捗や成果について確認しつつ、行政サービスの質の向上に向けた土台づくりとして、着実な取組みを求めました。また、データを活用したEBPM(エビデンス・根拠に基づく政策立案)の実現に向けて、データ基盤の整備も進められています。先進事例である神戸市の例を紹介しつつ、本市が持つ様々なデータを部局の垣根を超えて多角的に分析し、より実効性の高い政策立案につなげるよう求めました。

Information

福岡市議会・福岡市民クラブ

第14回 議会活動報告会



「議会活動報告会」って?

一年間の会派の取り組みを広くお伝えするとともに、参加者の皆さまとの意見交換の場として、毎年開催しています。どちらの会場でも参加できますので、ご都合に合わせてお越しください。

<日時・会場のご案内>

①東区・博多区
10月4日(土) 13:00～
@福岡リーセントホテル/ 2F舞鶴の間

②早良区・西区
10月13日(月・祝) 18:30～
@さいとぴあ/多目的ホール

③中央区・南区・城南区
10月17日(金) 18:30～
@アミカス/アミカスホール

※当日の配布資料は、福岡市民クラブのHPに掲載いたしますので、ご参照ください。
※各区選出議員が報告します。